

## 年 頭 挨 拶

会 長 間 塚 道 義



2014年の新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

日本知的財産協会会長という大役を拝命してから半年が経ちましたが、皆様のご協力、ご支援のおかげで無事に新年を迎えることができましたこと、深くお礼申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、第2次安倍内閣発足後、大胆な金融緩和、機動的な財政政策、そしてアベノミクスの本丸である成長戦略の策定により、円高の是正や株価の上昇などを通じ、日本経済復活への布石が打たれた重要な一年でありました。また、大変喜ばしいことに、2020年オリンピック・パラリンピックの東京開催が決定いたしました。このニュースは、日本中を歓喜の渦に包みましたが、われわれ企業にとっては、6年後に向け、世界各国から集まる人々を魅了するような製品・サービスを創造し、日本経済を盛り上げていかなければならないとの思いを一層強くさせるものでもありました。さらに、TPPについては、ついにわが国の交渉参加が実現いたしました。交渉は難航が伝えられながらも着々と会合が重ねられており、成果が大いに期待されるところです。知的財産については東京で交渉会合が開催され、とりわけ知財分野において日本政府が重要な役割を担っていると感じました。

このように、昨年は政府における大きな決断、それにともなう日本経済への期待が膨らんだことを追い風とし、業績が大幅に回復した企業も多くあります。しかしながら、いつまでも追い風頼みというわけにはいきません。企業はさらなる成長に向けて自己変革に挑み、グローバル競争に勝っていかねばならず、われわれも知的財産の側面からどのような貢献をしていくべきか積極的に知恵を出していく使命を負っています。

昨年閣議決定された「知的財産政策に関する基本方針」では、2002年の「知的財産戦略大綱」策定後の取組みや策定当時から大きく変容した経済社会情勢を踏まえ、今後の10年は①産業競争力強化のためのグローバル知財システムの構築、②中小・ベンチャー企業の知財マネジメント強化支援、③デジタル・ネットワーク社会に対応した環境整備、④コンテンツを中心としたソフトパワーの強化の4つを柱として知財政策を展開することが定められました。政府においては、本基本方針に沿って長期政策課題等を盛り込んだ「知的財産政策ビジョン」が策定され、知的財産に係る施策が着実に進められているところです。

これらの政策に関連し、特に産業競争力強化の観点から、当協会では一昨年以來、職務発明制度の抜本的見直しを提言し、真にイノベーションに資する制度へ転換すべく働きかけを続けております。

## 本文の複製、転載、改変、再配布を禁止します。

昨年には政府において有識者を交えた議論も始まりました。ぜひとも前向きな結論につながるよう当協会としても引き続き努力していく必要があります。

また、グローバルの視点からは、アジア太平洋自由貿易圏（FTAAP）の構築をにらみ、TPPに加えて日中韓FTAや東アジア地域包括的経済連携（RCEP）などの議論や交渉も始まっています。とりわけ目覚ましい経済成長が期待されるASEAN諸国において、企業が安心して積極投資を行うためには知的財産制度の整備が欠かせません。例えば、ミャンマーについては特許庁により官民合同の「知的財産制度整備支援チーム」が設立され、企業活動の後押しにつなげる取組みが開始されております。当協会としても、これまでの経験と実績を踏まえ、制度整備に対する支援はもとより知財人材の育成にも大きく貢献できると確信しております。単なる知的財産分野における協力という観点のみならず、これらの取組みを通じ、日本全体に対する信頼の醸成、そして互いに成長を続けるための重要なパートナー関係の構築という大きな視点で尽力することがわれわれに求められております。

まさにこのような思いから、当協会では来たる2月に、経済連携が進展する中で今後の知財制度のあり方をどう考えていくべきかなど、大局的な観点から議論すべくシンポジウムを開催する予定です。国内外からの来賓による基調講演のほか、有識者によるパネルディスカッションなどを通じ、会員の皆様にとって示唆に富む実りの多い一日にしたいと考えております。

さて、このような活動をますます活発に進めていくにあたり、当協会では活動基盤の安定を目指し、一般社団法人化に向けた検討を進めてきました。言うまでもなく世の中は刻一刻と変化しています。めまぐるしいスピードで技術革新が起これり、研究開発のあり方やビジネスモデルが日々変化していることは企業自身が実感しているところだと思えます。このようなビジネス環境において、企業が確固たる戦略を立てグローバル競争を勝ち抜いていくには、知財部門としても変化に対して機敏に対応し、状況に応じた新しい視点で知財戦略を実行していく覚悟が必要です。いよいよ今年、一般社団法人に生まれ変わる新生日本知的財産協会として、これまで以上に会員の皆様の支援をさせていただくとともに、ぜひとも皆様と一丸となって、未来に向かって変化し続ける協会でありたいと思えます。

最後になりますが会員の皆様のますますのご活躍とご健勝をお祈り申しあげまして、新年のご挨拶とさせていただきます。